

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	山本地域資源の保存・魅力再発見・活用事業
事業主体 (連絡先)	山本地域づくり委員会 飯田市山本3378
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,828,000 円 (うち支援金: 1,462,000 円)

事業内容

「地域資源のデジタルアーカイブ化」と「地域資源の次世代への継承」

- 各地区から選出された山本地域づくり委員会(地域振興部専門部会)による事前調査・学習: 2回
- 地域資源デジタルアーカイブ化(杵原学校、山本の歴史)調査・学習活動等: 5回
- デジタルアーカイブ作品数2作品「杵原学校」、「山本の歴史」



【文化祭での作品上映】

【目標・ねらい】

事業効果

- ①地域資源デジタルアーカイブ資料として2件制作し、地域資源として保存することができた。
- ②デジタルアーカイブ資料を通じて、地域資源やその歴史を知る地域住民が増加した(3月5日山本地区文化祭の参加者のうち約300人が鑑賞し、山本の歴史を知ることができたといった声を多くいただいた)。
- ③今までの地域学習素材は紙ベースのものしかなかったが、映像資料の制作により、さらに、小学校の授業や公民館の講座とも連携した取り組みに繋げることができる。
- ④4月1日(土)・2日(日)に杵原学校で行う、杵原さくらまつり(おもてなし活動)でも上映を予定。約500人。その他にも当面は杵原学校を活用したイベント等での上映を行う。

- ①地域の史跡、伝統文化等を地域資源として保存
- ②山本地区の魅力再発見
- ③小学校や公民館における地域学習素材としての活用
- ④地区外から訪れる人たちへの山本地区のアピール活動

※自己評価【B】

【理由】

- 地域資源を次世代に継承していくためのデジタルアーカイブ資料が2件制作できた。
- 資料により、山本の歴史等をはじめ知る事項もあった。
- この資料により、今後、学校や公民館活動等での地域学習素材として活用ができる。また、桜のおもてなし活動等、杵原学校を起点に資料を活用した交流が図ることができる。

今後の取り組み

- 令和5年度以降、下記を中心に映像作品の十分に活用しながら地域間交流を推進していきたい。
- ・小学校とも連携し継続的に地域の子どものふるさと学習の教材にしていく。
- ・QRコードを掲載した山本地区の情報を発信するSNSや公民館広報紙、地域づくり委員会の封書類、地域が開催するイベントなどにおける広報など、「いつでも・どこでも・誰でも」見られる機会を創出していく。
- ・現在も地域内外の交流拠点である「杵原学校」を起点に、作品を活用した更なる交流推進を図りたい。